

**令和7年9月議会
経済振興委員会 報告資料**

人流機能に係る検討状況について

**令和7年9月
港湾空港局**

人流機能に係る検討状況について

中央ふ頭・博多ふ頭地区は、博多港港湾計画において、人流・賑わい機能の充実・強化を図りながら、国内外との交流の拠点としての役割を担うエリアに位置付けられている。

J R九州高速船株式会社が船舶事業から撤退するなど、人流機能を取り巻く状況が変化していることを踏まえ、その現状や課題を整理した。

1 人流機能の位置



2 現状と課題

(1) 国際定期機能

博多港と釜山港を結ぶ国際定期航路は、日本及び韓国における文化・経済交流の重要な役割を果たしているが、ＪＲ九州高速船株式会社が船舶事業から撤退したため、現在、貨物輸送も担う国際フェリー「ニューかめりあ」１隻のみの就航となっている。

「ニューかめりあ」の運航状況		
航路	便数	所要時間
博多～釜山	週６～７便	約５時間３０分

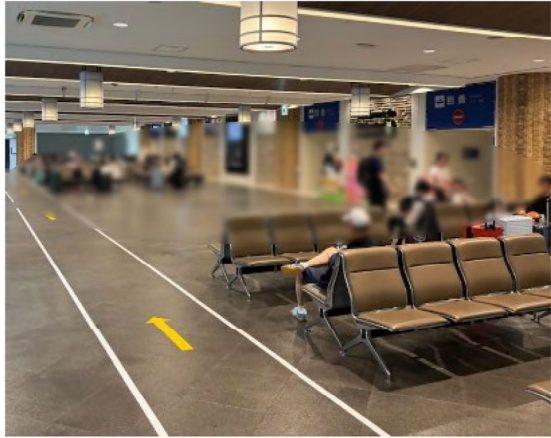
〔乗降人員の推移〕

単位：人

H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
406,513	366,870	263,572	26,158	0	3,465	216,946	255,750

※R6年は速報値

〔旅客施設(博多港国際ターミナル)〕

外観	施設内の状況
	
概要	
供用 ：平成５年４月（築32年） 延床面積 ：約13,300㎡ 機能 ：チェックインカウンター、待合空間、 C I Q(入国ブース数：8)、C I Q関連事務所、 船社及び関連企業事務所、免税店、飲食店、 ホール、上屋 等 ※C I Qとは C：税関(Customs) I：出入国管理(Immigration) Q：検疫(Quarantine)	
関連施設	
交通広場、駐車場、コンテナヤード 等	

[主な課題]

- ・ J R九州高速船株式会社の船舶事業撤退等により、博多港国際ターミナルのチェックインカウンター等施設の一部(約1,600㎡)が未利用となっている。
- ・ 博多港国際ターミナルは築32年が経過し、受変電設備等が老朽化している。

(チェックインカウンターの利用状況[R7.7])



(未利用の乗船待合室[R7.8])



※チェックインカウンターとしては未利用であるが、奥のスペースを事務所として利用

【参考】博多港国際ターミナルの利用状況

